

令和7年度産学公連携共同研究開発事業補助金 事業報告書（ダイジェスト版）

プロジェクト名	次世代ウェルビーイング尿失禁治療器の開発
代表者	京都府立医科大学大学院医学研究科 泌尿器外科学 講師 内藤泰行
連携先	
実施期間	2025年7月15日～2026年1月31日
事業の背景・目的	<p>老年世代の「排泄ケア」と育児世代の「子供の尿失禁」とは、当事者にとっては尊厳に纏わる問題であるとともに、世話をする者にとっても大変負担の大きな問題である。超高齢化社会を迎える本邦では、高齢になればなるほど合併症ゆえに尿失禁の治療薬が禁忌として内服できない患者が多く存在し、尿失禁治療器の医療・介護現場のニーズは大きい。</p> <p>精神的・肉体的・経済的負担が大きい無意識の尿失禁に対し、「全自動型尿失禁治療器」の開発を目標としています。</p>
事業内容	プロトタイプ機の作製に向けた取り組み ・プロトタイプ機の仕様検討 ・臨床試験に向けたプロトタイプ作製 ・薬事相談
事業の成果	臨床試験に向けた課題を抽出するため、産学連携によりプロトタイプ機の仕様設定及び性能検証を行った。 また薬事相談を行い、社会実装に向けた課題の抽出を行った。 当初より目標にしていた臨床試験に向けたプロトタイプ作製については、改善すべきは行い、結果として我々が考える『臨床試験に向けたプロトタイプ』の実験機の作製に至った。
今後の課題・展望	社会実装に向けて、PMDAの指導にしたがって、医療機器としての社会実装に向けて産学官連携で邁進する。